

第32回日本ナイル・エチオピア学会学術大会第2次サーキュラー

2023年2月

第32回日本ナイル・エチオピア学会学術大会の第2次サーキュラーをお送りします。第32回学術大会は、大阪公立大学中百舌鳥キャンパス（大阪府堺市）にてハイブリッド方式で開催予定です。

開催方法について

対面およびオンラインのハイブリッド方式の開催を予定しています。

参加・発表の申し込みには、本文中の<参加フォーム>をご利用下さい。会員のみなさまの積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。

1. 大会概要

【会期】 2023年4月15日（土）～16日（日）

【会場】 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス 大阪府堺市中区学園町1-1

アクセスマップ：<https://www.omu.ac.jp/about/campus/nakamozu/>

（オンライン（ZOOM）の場合）

参加にはZoomに接続するためのパソコンやタブレット等のインターネット端末、安定してインターネットに接続できる環境が必要になります（発表者の場合、マイク内蔵型のPCではない場合は外付マイクも必要です）。

【スケジュール】

2023年4月15日（土） 評議員会、公開シンポジウム

4月16日（日） 研究発表、総会

* 公開シンポジウムの詳細につきましては、末尾の案内をご覧ください

2. 運営幹事会・評議員会・総会スケジュール

【運営幹事会】 2023年4月14日（金） 16時30分～18時30分

【評議員会】 2023年4月15日（土） 11時30分～12時30分

【総会】 2023年4月16日（日） 午後

* 運営幹事会、評議員会ともハイブリッド形式で行います。

3. 参加申し込み

(1) 参加をご希望の方は、**2023年3月31日（金）までに<参加フォーム>**

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSefWHEbBIbOkCzkSiY7P6YbfEEpijGGURcHnwsXF49Dlb7Vbw/viewform?usp=sf_link

からお申し込みください。

(2) 参加費

・ 対面参加

3月31日までに納入いただく場合 大会参加費2,000円（学生1,000円）

4月1日以降に納入いただく場合 大会参加費3,000円（学生2,000円）

・ オンライン参加 無料

・ 大会参加費は、下記の口座に振り込んでください（当日受付での支払いも可能です）。

みずほ銀行 千里中央支店 普通 3042109 宮脇幸生

4. 発表申し込み

(1) 研究発表は4月16日（日）に行われます。最大で12の発表が可能です。ただし、希望者多数の場合はDropboxでの回覧発表に変更していただく可能性があります。ハイブリッド形式での開催の場合でも、会場でのポスター発表は行わず、口頭発表以外はDropboxでの回覧発表となります。

(2) 発表形式：口頭発表（25分〈発表20分、質疑応答5分〉）です。

(3) 発表申し込み：発表をご希望の方は、まず、**2023年3月15日（水）**までに上記の<参加フォーム>経由で発表希望についてお知らせください。発表をご希望の方は、締め切り厳守でご連絡をお願いいたします。

(4) 発表要旨提出：発表をご希望の方は、参加申し込みをしていただいたうえで、**2023年3月31日（金）**までに、発表要旨を<発表要旨フォーム>（https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScoYnqhzQQQ8PQMyejaXYIFgVRODbcUq5l3BtoT4HKkGEM_aQ/viewform?usp=sf_link）経由でご提出ください。

* フォームに入るためにはGoogleアカウントが必要です。Googleアカウントをお持ちでない方は、アカウント（無料）を作成の上フォームにお入りください。

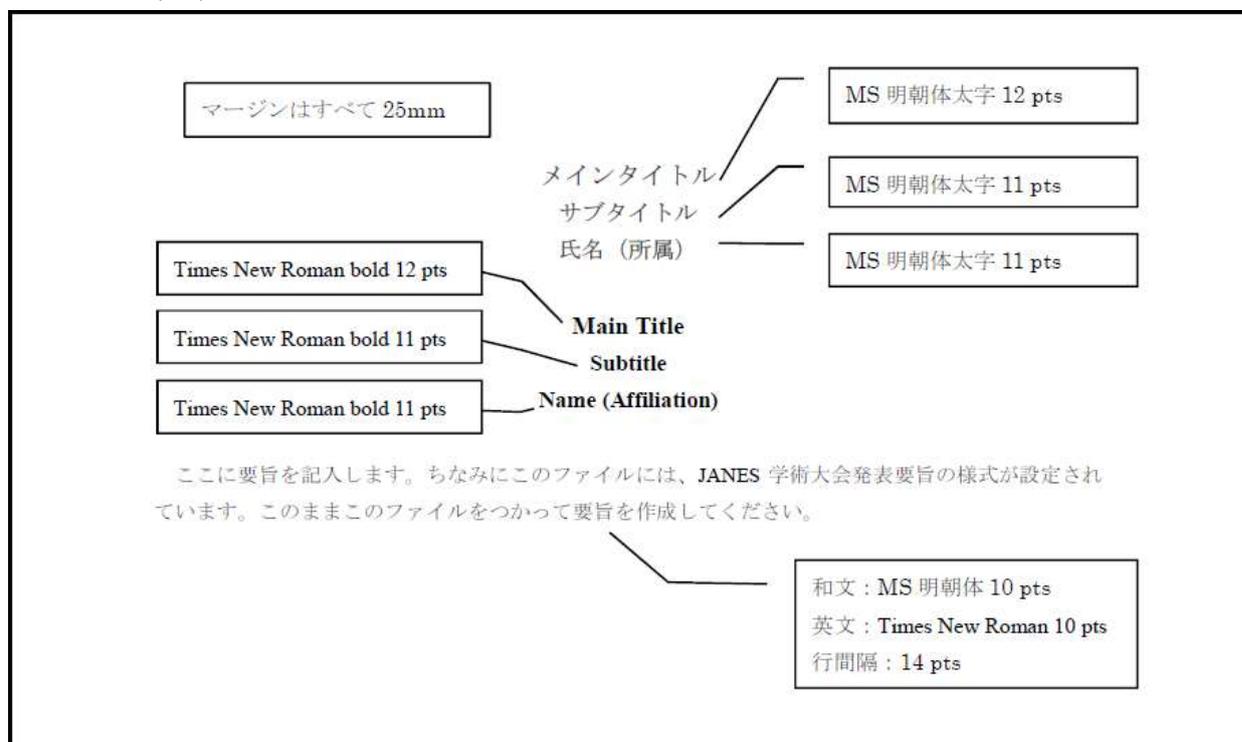
5. 発表要旨作成要領

主な仕様は下記の通りです。テンプレートを別途添付いたしますので作成にご利用ください。

- 原稿サイズと上限枚数：A4、2ページ以内
- マージン：上下左右25mm
- 和文フォント：MS明朝体
- 英文フォント：Times New Roman
- タイトル・フォントサイズ：12ポイント
- サブタイトルおよび発表者の氏名・所属・フォントサイズ：11ポイント
- フォントサイズ（本文）：10ポイント
- 本文行間隔：14ポイント
- タイトル、サブタイトルおよび発表者の氏名・所属：中央揃え、太字
- 日本語による発表：英文のタイトル、サブタイトル、氏名・所属を記載してください
- 英語による発表：英語のみ

★A4用紙縦一枚に収まるようにしてください。The abstract should be within one page.

★原則として、WORD文書とPDFに変換したファイルの2点を発表要旨フォームから送付してください。Please prepare 2 files for an abstract in WORD format and PDF format.



6. 託児所

託児所を開設する予定です。希望者は3月15日（水）までに〈参加フォーム〉にその旨ご記入のうえお知らせください。託児所の利用は無料です。なお託児所ご利用の方は、利用に関する書類を提出していただきます。提出書類につきましては、託児所利用希望者が確定しました段階で、個別に連絡させていただきます。

7. 宿泊施設等のご案内

大会事務局では宿泊の紹介は行なっておりません。ハイブリッド形式の際に対面での参加を希望される方は必要に応じて早めに各自で宿泊施設への予約を行なってください。

8. 問い合わせ等

2023年度の学術大会に関する情報は、以下の日本ナイル・エチオピア学会ホームページからご覧いただけるようにいたします。 (<http://www.janestudies.org/>)

また、学術大会に関する問い合わせ先は下記のとおりです。

第32回日本ナイル・エチオピア学会学術大会大会事務局：宮脇幸生（委員長）

大会事務局連絡先：〒599-8531大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学現代システム科学研究科
事務局専用メールアドレス：32nd.janes[at]gmail.com（送信の際は[at]を@に変換してください）。

女性兵士が問いかける地平：エチオピア、ルワンダ、ソ連・ウクライナの事例から

「戦争と女性」が議論の俎上にあがる際、主に取り上げられてきたのは「戦争の犠牲者・被害者」となった女性、また「銃後の女性」として戦場から隔離された場所で戦争支援にかかわる女性であった。他方で女性は兵士として、世界各地における国家間の戦争や一国内で発生した内戦に動員されたり、志願し参加してきた。女性兵士動員の背景には、総力戦にむけた兵力の増強もあるが、他方で兵士に志願した女性たちの動機の中にはジェンダーにかかわらず戦時下での国家や社会への貢献や女性の地位向上も指摘される。戦場における女性兵士の経験を明らかにすることは戦争の理解を深めるのみならず、女性の政治的エージェンシーを浮き彫りにする。

他方で、女性が「平和の象徴」と位置づけられたために、あるいは女性の戦争における貢献が家父長制の影響を受けて過小評価されたために、女性兵士の存在や経験が不可視化される場合も少なくない。戦後における男性兵士と女性兵士の経験は必ずしも同じではなく、女性兵士の評価には社会や国家におけるジェンダー規範が深く影響してくる。

女性たちは、どのような経緯で戦争に加わり、そこで何を期待され、何を考えてきたのだろうか。

本シンポジウムでは、ソ連・ウクライナ、ルワンダ、エチオピアの女性兵士を取り上げる。女性兵士が参加した戦争、参加した時期、参加の在り方も千差万別である。多数の女性兵士の動員を第二次大戦下に世界で初めて実現したソ連、ロシアによる侵攻の危機から女性兵士が注目されたウクライナ、冷戦下の軍事政権による圧政に抵抗したゲリラ組織に女性兵士が参加したエチオピア、ジェノサイド後の女性の躍進が注目され女性の軍事化と紛争現場への女性兵の派兵が進むルワンダ。このように本シンポジウムで取り上げる女性兵士がかかわった戦争の性格は多様であり、女性兵士の在り方やその意義は、それぞれの戦争とその社会的背景を考慮したうえで解釈される必要がある。それぞれの戦争における女性兵士の経験は決して均質化することはできず、多様な女性兵士の経験を検討することで女性と戦争に関する理解を深める契機となる。

女性兵士の経験は、戦場の経験に限定されず、戦後の女性兵士の経験との連続性や断絶も注目すべき点である。女性兵士たちが志願した戦争においては、女性兵士の活躍が戦時下や戦後の女性の地位やジェンダー規範に影響を及ぼした事例もある。これらの女性兵士たちの経験、女性兵士が直面した課題と成果、女性兵士を取り巻く戦中や戦後の社会や国家、軍隊の在り方を検討し、女性が兵士として戦争に参加することの意味を考察したい。

- ・日時 : 2023年4月15日 (土) 14:00~17:30ごろまで
- ・会場 : 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス 学術交流会館
- ・方法 : 対面とオンラインのハイブリッド
- ・共催 : 大阪公立大学女性学研究センター

- ・プログラム (時間・発表タイトルは若干変更になることもあります)

14:00 開会

14:10~14:20 内藤 葉子 大阪公立大学 趣旨説明

14:20~15:00 橋本 信子 大阪経済大学 女性が兵士になるときーソ連、ウクライナの事例

15:00~15:40 眞城 百華 上智大学 エチオピア・ティグライにおける女性兵士の経験ー戦
時下の女性解放と戦後への架橋

15:40~15:50 休憩

15:50~16:30 近藤有希子 京都大学 彼女たちの戦線ールワンダ丘陵をめぐる危機的日常と
女性兵士という選択

16:30~16:40 秋林こずえ 同志社大学 コメント

16:40~17:00 休憩

17:00~17:30 質疑応答